［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102678
法人名	有限会社　勝法
事業所名	グループホーム　中川のより道
所在地 （電話番号）	長崎県長崎市中川1丁目7番14号 （電　話）095－824－5199

評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】（　19年10月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	10人	常勤　10人，非常勤　0人，常勤換算　10人	

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 4 階建ての　1 階 ～ 4 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	1,200　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（19年10月1日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5	名	要介護2	1	名
要介護3	2	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84.6 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	山口整形外科、はざま神経内科、山田歯科、サンブライト愛宕

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外部評価でホームに訪問させていただいたとき、近くの保育所の子どもたちが園長先生と一緒に卒園式の招待状を持って来られた。リビングは2階にあり、訪問者は、1階の玄関からエレベーターを利用して上がってくる。子どもたちの笑顔が一気にリビングに充満し、ご利用者の目が愛おしさに満ちた目に変わっていった。平成14年4月に開設したホームは、すっかり地域に溶け込み、子どもたちの成長を見守る存在にもなっている。開設当初、保育所に通っていた子どもたちが、今では小学生になり、時々遊びに来てくれている。ホームの歴史とともに、地域の子どもたちの成長を、日々の暮らしの中で職員は感じとることができている。ご利用者も一緒に地域のパトロールをし、地域のお祭りに行き、そしてお散歩をする。道端での何気ない挨拶が“あたりまえの生活”になっている。看護師による医療連携体制の充実・バランスの取れた食事・適切な水分量の確保・適度な運動・毎日の笑い声は、ご利用者の元気につながっている。職員の離職もほとんどなく、馴染みの関係ができている。昼食時、ご利用者の方が「多少、いざこざがあってもいいのです。私たちは家族なのだから。それがあっていいのです」と、温かい笑顔で話してくださった。台所で、食器を洗うご利用者、ビデオを楽しそうに見ておられるご利用者。それぞれのご利用者にとって居心地の良いホームであることが伝わってきた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 昨年度の外部評価の結果は、全職員で話し合い、今後も創意工夫をしていくことの大切さを、代表（管理者）から伝え、全員で話し合いを行うとともに、改善に向けた取り組みを続けてきた。ヒヤリハットに関することでは、職員でヒヤリハットの勉強会を行い、理解を深め、職員全員がヒヤリハットを意識し、報告をあげる努力を続けてきた。また、家族への報告に関しては、写真だけではなく、ビデオにてご様子を伝えていく方法もとり、ご家族から喜ばれている。他も、更なる取り組みを続けている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 代表（管理者）は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。職員も含めて話し合いをし、日頃の状況を振り返りながら自己評価を行った。日頃行っていることを振り返る機会になるとともに、現状の再認識にもつながった。また今後、取り組んでいきたいことも職員から意見を言っていただく場になっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** ご利用者・ご家族・自治会副会長・民生委員・市職員や地域包括支援センター職員・短期大学講師などの方々が集い、2ヶ月に1回、開催している。まず2ヶ月間の行事報告や職員の研修参加報告なども行い、参加者からも、ご意見・質問をいただいている。いただいた意見は、すぐに検討し取り組みを行っており、その結果を、次回の運営推進会議にて報告している。「地域の方の意見を聞く場があるのは大変良いことである」と言うご意見もいただき、有意義な会議になっている。自己評価・外部評価の結果も報告している。今後は、更に参加者を増やしていきたいと考えている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること、知りたいことを把握しており、最低、週に1回から月に1回程度、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりなどを口頭で説明し、ホーム内にも、行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話やメールでの報告もしている。日頃と変わりが無い状況でも、「変わりありません」の一言ではなく、同じ状況であっても、くわしくご報告するようにしている。健康状態・受診状況などは、看護師が、随時、報告している。ご家族がホームを来訪時、なるべく管理者、介護支援専門員・職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていただけるよう働きかけている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に加入し、8月の地域の盆踊りや校区祭りには、ご利用者も職員と一緒に参加している。平成15年から、お祭りの時に、ホームも出店も出し、職員やボランティアの方で、手作りちまきやマドレーヌを作り、ご利用者の方が、売り子さんになり、地域の方も喜ばれている。地域の寄り合いにも出席し、地域の方との交流を行うとともに、ご利用者と一緒に、地域小学校区の生徒の見守り活動にも参加している。年に4回、地域向けに“中川のより道だより”を発行し、その通信の中には“なるほど豆知識”と言う欄を作り、健康情報などを掲載している。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり　ゆったり　そのひとらしく」と言う理念が作られている。理念の中には、“地域でおこなっていたことを、特別なことではなく、ごくあたり前にしていただく”という思いを込めており、日々実践してきた。ホームのご案内の中にも、「・・・山の中ではなく、住み慣れ、見慣れた環境の中にあり、散歩や買い物などの生活を送り続けることができます・・」と明記しており、平成14年の開設以来、ご利用者が地域に密着した生活が送れることを基本におき、取り組みを続けている。	○	現在の理念を基本にしながらも、今後は更に、職員同士で、“地域密着型サービス”の役割を意識して、理念のあり方（表現の仕方）を検討していきたいと考えている。より多くの方に、理念に込められている意味を理解していただくことにつながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人教育・職員会議・ケース会議や日々のケアの現場でも、常に、代表（管理者）や計画作成担当者が、理念に関する話しをしており、全職員、理念を理解している。「今の行動（介護）は、ご利用者がどの様に感じたと思うか」「主役はご利用者」と言うことを話し合っている。日々の現場の中でも、ご利用者お一人お一人のペースを尊重し、言葉のかけ方に配慮し、ご本人の発言を待つようにするなど、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	理念の実践に向けて、ご利用者を取り巻くすべての環境に気を配っていきたいと考えている。職員全員が、更に、ご利用者の立場にたって、音・光・におい・・のあり方を検討し、ご利用者の方々が、「のんびり　ゆったり　そのひとらしく」生活していけるよう取り組みを続けていく予定である。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の盆踊りや校区祭りには、ご利用者も職員と一緒に参加している。お祭りの時には、ホームも出店を出し、職員やボランティアの方で手作りちまきなどを作り、ご利用者の方が売り子さんになっている。地域の寄り合いにも出席し、地域の方との交流を行うとともに、ご利用者と一緒に、地域の小学校区の生徒の見守り活動にも参加している。年に4回、地域向けに“中川のより道だより”を発行し、その通信の中には“なるほど豆知識”と言う欄を作り、健康情報などを掲載している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表（管理者）は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。職員も含めて話し合いをし、日頃の状況を振り返りながら自己評価を行った。日頃行っていることを振り返る機会になるとともに、現状の再認識にもつながった。また、今後、取り組んでいきたいことも職員から意見を言っていただく場になっている。昨年度の外部評価の結果は、今後も創意工夫をしていくことの大切さを代表（管理者）から伝え、全職員で話し合い、改善に向けた取り組みを続けてきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・自治会副会長・民生委員・市職員や地域包括支援センター・短期大学講師などの方々が集い、2ヶ月に1回、開催している。まず会議前2ヶ月間の行事報告や職員の研修参加報告なども行い、参加者からも、ご意見・質問をいただいている。いただいたご意見は、すぐに検討し取り組みを行っており、その結果を、次回の運営推進会議にて報告している。「地域の方の意見を聞く場があるのは大変良いことである」と言うご意見もいただき、有意義な会議になっている。自己評価・外部評価の結果も報告している。	○	今後は、更に、ホームの応援団となっていただいている方々に声かけし、会議に参加していただきたいと考えている。学校のPTAの方々・派出所・中学校の教頭なども検討している。今後、参加者が増えることで、より広い視点から、ホームに対してのご意見をいただけることが期待される。地域の方々との意見交換が、更に活発になっていくことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラーの件など、何か疑問点があれば、市役所の方に電話やファックスで相談している。親身に対応していただき、回答もいただけている。年に2回、市の相談員の方もホームに来られている。地域向けのお便りを、年に4回、地域包括支援センターの方に渡して、ホームの現状も報告もしている。	○	今後は、ホームの通信を、直接、市役所に持参するなど、日々の取り組みを話しあえる関係を作っていきたいと考えている。日頃の取り組みを理解していただくことで、行政からのアドバイスやご意見を頂く機会が増えていくことも期待される。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること、知りたいことを把握しており、最低、週に1回から月に1回程度、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりなどを口頭で説明し、ホーム内にも、行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話やメールでの報告もしている。日頃と変わりが無い状況でも、「変わりありません」の一言ではなく、同じ状況であっても、詳しくご報告するようにしている。健康状態・受診状況などは、看護師が、随時、報告している。金銭の収支も報告し、明細書などを渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時、なるべく管理者、介護支援専門員・職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていただけるよう働きかけている。ご心配なことがないか、ご家族の表情を見るように気を配り、しっかりお話を聴くように努めている。現在まで、苦情などはないが、意見などをいただいた場合は記録に残し、全職員で考え、対応するシステムになっている。相談の内容によっては、医師から直接説明していただくなど、ご家族の不安を安心に変えることができるような取り組みを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である管理者は、職員が交代することで、ご利用者へのダメージがあることを理解している。離職もほとんどなく、組織上、異動も無い。職員間の仲が良く、職員の勤務希望に極力、応じたり、運営者である管理者も、職員の話しを良く聞くようにしており、日頃からチームワークを大切にしている。会議や食事会の場でも、相談しやすい環境を作っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低月に1回以上、会議と同じ日にホーム内研修を行っている。昨年度の改善項目だったこともあり、職員一人一人が考えたテーマ（足浴・レクレーション・行事など）を勉強し、10分程度発表している。県・市・事業所連絡協議会の研修にも職員が参加し、ホーム内で伝達研修も行っている。今年度は、看護協会主催の訪問看護の研修にも看護師が参加した。現場では、運営者である管理者・介護支援専門員などが、職員の指導にあたっているが、職員全員で相互教育をしている状況である。	○	現在、管理者や介護支援専門員が、職員個別に指導をおこなう取り組みをしている。各職員、1年間のテーマを決めて勉強に取り組んでいく予定になっている。今後は、さらに職員一人一人の育成計画を作成し、段階に応じた育成が継続して行われていくことを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者である管理者は、開設時より、全国グループホーム連絡協議会に加入している。その後、長崎県認知症グループホーム連絡協議会にも加入している。同業者との交流を行っていく必要性を理解し、職員同士の交流を図る場を積極的に作ってきた。他のグループホームとの勉強会を行うとともに、電話やメールでの情報交換も行っている。相互訪問を行うとともに、研修会があれば職員が参加できるようにしている。他のホームの取り組み内容を知ることができ、とても参考になっており、今後もネットワークづくりを続けていきたいと考えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、管理者・介護支援専門員の2人で、ご自宅や病院などに事前に訪問したり、ホームに入居する前に、ホームの見学に来ていただき、職員とも顔なじみになるようにしている。入居の説明は、ご家族からご本人に説明をしていただくようにしており、なるべく、ご本人が安心して、納得して入居できるよう、入居時の体調にも配慮している。ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、ご家族の面会を多く持っていただくようお願いしたり、事前にご家族から、ご本人の好み（絵を描くのが好き等）や介護への希望なども教えていただいている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「この料理は自信がないので、頼りにしていますね」と言って、食事の作り方を教えていただいたり、一緒に参加していただくようお願いしている。ご利用者の方から「いつも遅くまでお疲れ様」や、「きついときは、私が肩をもんであげるから」と励ましの言葉をいただくことも多い。戦争時の話や、原爆投下の日のことを教えてくださり、職員も日々勉強させていただいている。その都度、職員は、感動や感謝の気持ちをご利用者に伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で、ご利用者の方に昔話を聞いたりしながら、思いや希望を語っていただいている。意思疎通が困難な方はご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と目線を合わせることで、ご利用者の思いに近づく努力をしており、日頃、あまりお話をされない方が、会話が増えてこられている。リビングやお部屋・買い物・散歩・入浴時など、職員と2人になった時になるべく本音を語っていただくようにしている。職員が、何気ない言葉に込められている本当のお気持ちに近づけるように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、あらかじめ、ご本人・ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ皆で話し合って作成している。「センター方式」を活用し、“私の願い”と言う視点を職員は大切にしながら、“その方らしさ”を把握し続けている。ご利用者お一人お一人のご希望を把握し、「地域で暮らす」と言う視点も盛り込み、ご利用者主体の介護計画になるように努めている。	○	今後は、ご利用者・ご家族・主治医など、全員で、担当者会議をしていきたいと考えている。介護計画と合わせて、センター方式の一部なども担当者会議の場で活用し、体調の変化・望む暮らしの希望・日々の暮らし方やケアの希望などを、全員で共有していき、ご本人の願いが叶えられるための意見交換ができていくことを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低、1ヶ月に1度の会議で、全員の体調や暮らしぶりの意見交換を行っている。短期目標に合わせて、モニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見をうかがいながら介護計画作成の見直しをしており、状態が変化した場合は、随時、見直し、介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、通院介助の他、急な受診の対応もしている。医師への報告を徹底し、異常の早期発見、早期治療につなげている。発熱や下痢の風邪症状の方がおられたが、医師の指示のもと、ホーム内で点滴加療をして回復された。入院されている方にはお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか医師との連携を取り、早期退院につなげられた方もいる。また、ご希望に応じて、お寺や教会など出かけたい場所にもお連れしている。地域の方からの介護相談にも応じている。	○	現在も、看護師・准看護師が勤務しており、日々、ご利用者の健康管理を行っているが、今後、更に、24時間・365日、訪問看護が受けられる連携体制を整えていっている。ご利用者のご希望に応じて、ホームで安心して生活できる医療連携体制が、更に充実していかれることを期待していきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。かかりつけ医には、日頃より、ご利用者の状況、暮らしぶりなどを、看護師などが細やかに報告しており、いつでも相談できる関係ができており、かかりつけ医からも、適宜、必要な助言・指導をいただけている。通院介助は、職員が行っており、通院の結果は看護師よりご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「③看取りに関しては、ご本人やご家族の希望を尊重し、・・綿密な話し合いをして決定する。その後も、ご家族がスタッフとともにご本人の状況を把握し、日々の体調の変化に基づく方針を検討していく（『看取りに関する考え方』より一部抜粋）」など、ご入居時に、ご家族などに説明している。ご利用者やご家族に対して、重度化した場合や、終末期の意向も把握できており、ご希望に応じた対応を行っていきたいと考えている。	○	今後、終末期にホームで対応できることを、職員・かかりつけ医とも話し合い、更に明確な終末期に対する方針を決め、明文化していく予定である。家族会などの場も活用し、ホームの方針を伝えるとともに、その後は、個々のご家族と話し合いをしていきたいと考えている。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、管理者などより、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう指導をしており、職員も、「ご利用者のプライバシーの保護を一番守らないといけないことである」と考えている。ご利用者への言葉かけに心を配り、職員はお互いに言動を注意している。職員が、ご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけを行い、その方に応じた話し方を気をつけるとともに、否定的な言い方はしないようにしている。職員は、個人情報の取り扱いにも配慮し、情報の漏洩防止にも努めている。	○	ご利用者に対して、常に馴れ合いにならず、敬意を持った言葉かけ、対応をしていきたいと考えている。ご利用者同士が会話をしている時の声かけの仕方などを含めて、今後も、どのような言葉かけが、“ご利用者にとって、より良い言葉なのか”、職員同士で話し合いを続けながら、マニュアル化されてみてはいかがであろうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調にもよるが、希望を表せない方であっても、なるべくご本人のペースで自由に行動していただくようにしている。寝たきりにならないよう声かけをし、レクレーションの工夫を行うとともに、積極的にレクレーションに参加できるように、ご利用者同士も声かけをしていただくなど、毎日が楽しく過ごせるようにしている。職員が、ご利用者お一人お一人のお気持ちに配慮しながら、意識して声かけを行い毎日の過ごし方の希望を聞いている。	○	今までは、“皆さんで一緒に”と言う行動も多かったが、今後は、よりお一人お一人の要望を聞いて、個別の対応を増やしていきたいと考えている。なかなか、ご自分から要望を言われない方も多いので、職員の方からご希望を聞き、その方らしい日々の暮らしができるよう個別に取り組んでいく予定である。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の楽しみは“食べること”であり、ご利用者に、食べたい物のご希望を聞いたり、食材の買出し、下ごしらえ、食器拭き、テーブル拭きなど、お一人お一人のお力に応じて手伝っていただいている。 時々、外食したり、旬のものをお出しし季節感も味わっていただいている。“長崎皿うどん”の出前は、ご利用者に人気で、時々出前も楽しんでいる。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう、毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、入浴日を決めているが、夏などは、夕食後にシャワーを浴びていただき、汗を流すこともできるようになっている。羞恥心への配慮も大切にし、基本的には一人ずつの入浴にしている。ご本人のご希望に応じて、固形石鹸を使ったり、体調に留意しながらも、湯温・入浴時間も好みに応じている。季節感を出すために、ゆず湯をしたり、入浴時の会話を大切にし、楽しい入浴になるよう配慮している。冬は、ハロゲンヒーターを活用し、脱衣所を十分に保温し温度変化を少なくしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮して生きがいを持っていただけるよう、食後の食器洗いや食材の買出し・食事の下ごしらえなどをしていただくなど、日常生活の中で役割を持っていただくようにしている。楽しみとしては、テレビ（相撲などのスポーツ観戦）・近隣への散歩・ラジオを聴く・家族からの手紙を読む方などもおられる。日々、楽しみとともに、お一人お一人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。	○	現在、ご本人のお力に応じて、なるべくできることをしていただくようにしているが、少し、職員がお手伝いをしすぎる場面がある。今後は、ご本人ができるまで待つ姿勢を心がけるとともに、楽しみとしてのレクレーションへの参加を促す声かけの方法も、職員は学んでいきたいと考えている。 一日一日の中で、それぞれのご利用者のお力が発揮でき、日々、楽しく笑って過ごせるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていたお寺や教会・以前の勤務先など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。昔の知り合いの方に会えるので、なるべく馴染みの場所にお連れできるうよう心がけている。散歩が好きな方は散歩と、ご本人の意向に合わせた外出ができるよう配慮している。	○	体調などの理由から、外出を好まれない方もおられるが、今後も、その方のお気持ちに寄り添い、その日の体調を把握しながら、気分転換の方法や、ストレス発散の方法を職員全員で考えていきたいと考えている。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、一階の玄関は開放されており鍵はかけておらず、ご利用者やご家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声をかけ合い、ご利用者ごとの落ち着かなくなる時間帯や原因を把握して、お一人お一人の行動の確認、見守りを行っている。近所のガソリンスタンド・消防・レストラン・派出所などの地域の方にも、何かあった場合の協力体制はできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年2回実施し、全職員・ご利用者・消防署の方が参加し、訓練を行っている。夜間を想定しての救助方法の研修も行っている。また、AEDの使用方法の訓練など、緊急時の対応に向けた訓練も実施している。災害時にも、近隣の派出所などの協力を約束いただいている。また、災害時の非常用持ち出しバック（懐中電灯・ラジオ・救急セット・ビニール袋・下着・紙おむつ・食料・水・ライター・ろうそく・懐炉・食器・軍手など）を準備している。	○	今後、自衛消防隊研修課程（長崎消防学校）に職員が参加する予定になっている。実際に即した訓練を積んでいくことができ、ご利用者の日々の暮らしの安心にもつながっていくことが期待できる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事の好みを把握し、そのお好みに応じて、肉を魚に変えたり、カレーはご飯にかけずに別に盛ったりと、食べやすい工夫を続けている。食事量・水分量ともに把握し、記録に残している。大学の管理栄養士の方に、献立を見ていただき、アドバイスをいただいたり、定期的に体重測定を行い、血液検査の結果に基づいて医師からもアドバイスをいただいている。今後も、職員間で栄養の勉強をしていく予定である。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食卓に、ご利用者と職員が一緒に買ったお花を、ご利用者が活けてくださっている。リビングは窓が多く、とても明るい空間になっており、季節感のある飾り物を心がけている。日差しに配慮したカーテンやブラインドを使用しており、ソファーや食卓、テレビを置いてくつろいでいただいており、めだかも飼育している。臭いがこもらないよう換気にも注意している。	○	ご利用者が生活をする環境を大切に考えており、今後も、音の大きさ・流す音楽の選曲なども細やかに配慮していく予定にしている。ご利用者にお好みをお聞きしながら、居心地の良い空間を、作っていかれることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら、衣装ケース・鏡台・仏壇・お人形など持ってきていただき、部屋のレイアウトも一緒に考えていただいている。居室のカーテンの色も選んでいただいている。職員も、ご本人の移動状況を確認しながらベッドの配置を考えたり、安全な生活になることと合わせて、ご利用者にとって慣れ親しんだ居室になるように配慮している。		